

■AI(人工知能)・半導体集中相場は転機を迎えたか
年初から上昇が目立っていたAI・半導体関連株が、足元軟調に推移しています。米国の主要半導体企業で構成されるフィラデルフィア半導体株指数は、最高値を付けた6月22日から7月14日まで約14%下落しました。また、半導体株の寄与度が高い韓国総合株価指数も、同期間に約25%下落するなど、世界的にAI・半導体関連株への売り圧力が強まっています。

投資家からの高い人気を背景に投資資金が集中し、年初から力強い上昇が続いてきた同銘柄群ですが、米オープンAIのIPO(新規株式公開)延期報道等をきっかけに利益確定売りが広がったものと思われます。

国内株式市場では、やはり半導体株の寄与度が高い日経平均株価が最高値を付けた6月25日以降上昇一服となっている一方、市場全体の値動きを表すTOPIX(東証株価指数)は引続き堅調に推移しています(図表①)。また、両指数の相対的な強さを示すNT倍率は、6月25日に最高値の18倍を付けて以降、低下基調が鮮明となっています(同図)。

NT倍率の低下は、AI・半導体集中相場からの転換が進んでいることを示唆していると思われます。実際、足元ではこれまで出遅れていた業種への物色が広がっています(図表②)。7月13日には、銀行株の代表銘柄である三菱UFJフィナンシャル・グループが初めて時価総額で首位となり、話題となりました。

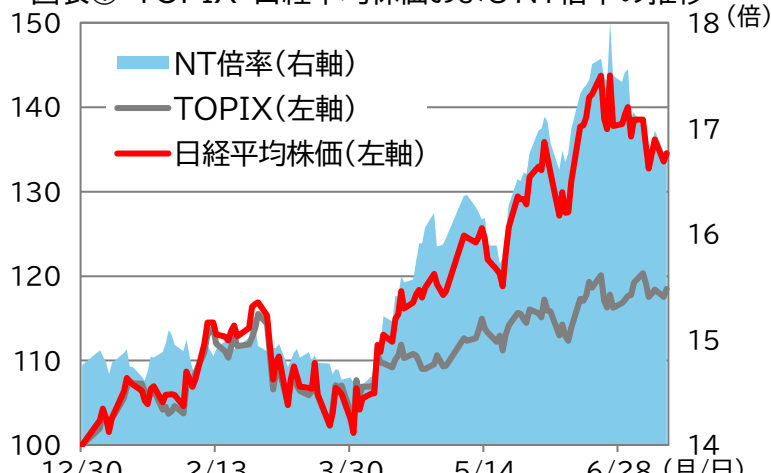
■主要ハイテク企業の決算発表に注目

今後さらに物色が広がるのかを占ううえで注目されるのが、今週以降本格化する主要ハイテク企業の決算発表です。AIサービスの拡大に向け、米国のハイパースケーラー(大規模クラウド事業者)がデータセンターへの投資を積極的に進める中(図表③)、一部ではそうした巨額投資が収益に対して過剰であるという懸念が高まっています。

世界的に旺盛なAI需要を背景に、これらハイパースケーラーを含むハイテク企業の業績や設備投資に対して引き続き強気の見方が決算発表で示されるか、注目したいところです。

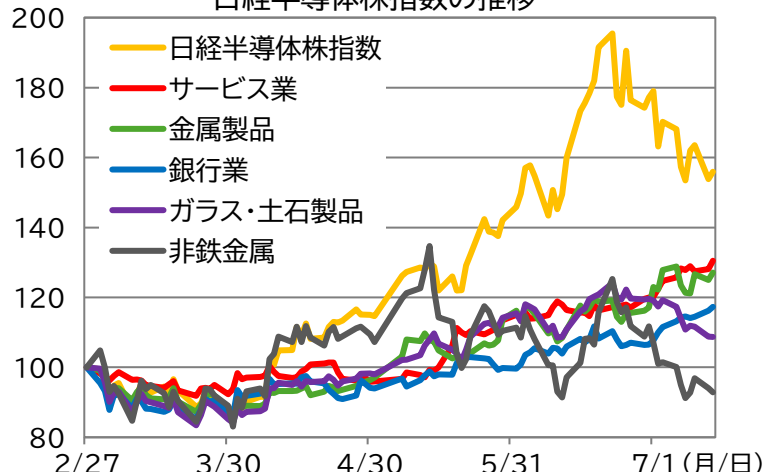
※ 個別銘柄に言及していますが、当該銘柄を推奨するものではありません。

図表①:TOPIX・日経平均株価およびNT倍率の推移



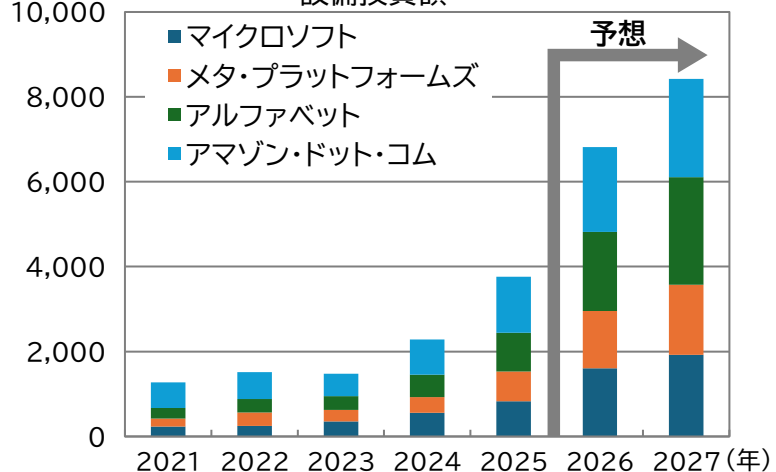
※ 期間は2025年12月末～7月14日、TOPIX、日経平均株価は2025年12月末を100として指数化
(出所)Bloombergよりいちよしアセットマネジメント作成

図表②:主な業種別株価指数と日経半導体株指数の推移



※ 期間は2026年2月末～7月14日、2026年2月末を100として指数化
(出所)Bloombergよりいちよしアセットマネジメント作成

図表③:米主要ハイパースケーラーの設備投資額



※ 期間は2021年～2027年、2026年以降はBloomberg予想
(出所)Bloombergよりいちよしアセットマネジメント作成

◆当資料は投資判断のご参考となる情報提供を目的としていちよしアセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。
投資信託のお申し込みにあたっては、販売会社より投資信託説明書(交付目論見書)をお渡ししますので、必ず内容をご確認のうえ、お客様ご自身でご判断下さい。
◆当資料は信頼できると考えられる情報をもとに作成していますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載は過去の実績であり、将来の成果を示唆、保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。